

第 27 回日本災害医学会総会・学術集会に参加しました (2022/3/3-5)

テーマ：災害医療のパラダイムシフト 攻める、守る、育てる

場 所：広島国際会議場+web (ハイブリッド開催)

2022年3月3日(木)-5日(土)の3日間、広島県広島市の広島国際会議場で第27回日本災害医学会総会・学術集会が開催されました。江川新一教授、佐々木宏之准教授(災害医療国際協力学分野)がセッション座長を、佐々木准教授が社会医学系専門医・指導医講習会の運営を行いました。新型コロナウイルス感染症流行を鑑み、学会はライブ配信併用のハイブリッド形式で開催され、約2200名の災害医療従事者、救急・消防関係者、保健行政関係者等が学術集会に参加しました(うち850名が現地参加)。

今回、神戸学院大学現代社会学部の中田敬司教授が、初めて「ロジ出身」の大会長として学術集会を運営されました。会長講演では、海外での災害支援の経験がDMATロジの礎となったこと、新型コロナ等「見えない敵」への災害対応で日本の災害医療がパラダイムシフトの時期を迎えていることなどを解説されました。作家堀川恵子氏による特別講演では、原爆投下直後に広島市で展開された陸軍ロジ部隊による救援活動など、現在の災害医療にも通じる組織運用について、大変感慨深い講演をうかがいました。学術集会プログラムでは新型コロナに関する上級・下級セッションが多く組まれ、ダイヤモンドプリンセス号対応に始まり現在も国・都道府県・医療機関単位で行われている新型コロナ対応の経験、新知見が多数発表されていました。佐々木准教授は、新型コロナワクチン接種にまつわる各地の取り組みについてセッション座長を務めました。ワクチン接種会場での急病者対応への工夫、ワクチン相談ダイヤルに寄せられる住民不安や行政対応者の苦悩、山間地域における感染予防対策など、全国各地で地域実情に合わせたさまざまなワクチン接種対応が取られていることやさまざまな課題が浮き彫りとなりました。

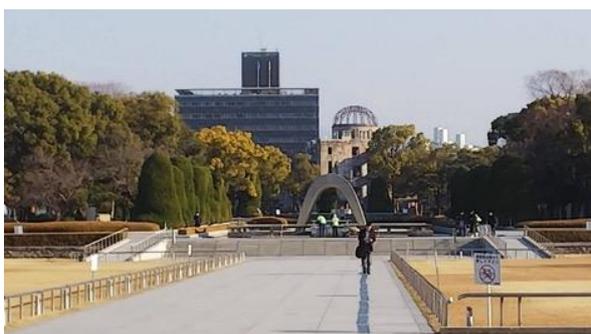
今後、日本災害医学会総会・学術集会は、第28回が2023年3月9日-11日に岩手県盛岡市、第29回が京都府京都市、第30回が愛知県名古屋で開催される予定です。保健医療以外の分野からの参加者、演題登録も広く待ち望まれています。



中田敬司会長講演。ハイブリッド開催のため参加者も密にならず安心



次年度会長の岩手医大眞瀬智彦教授による挨拶(評議員会)



会場となった広島国際会議場から望む早朝の平和祈念公園と原爆ドーム

文責：江川新一、佐々木宏之
(災害医療国際協力学分野)